

1 学校教育目標

「夢実現 ～百見は一験に如かず～」

ア 教育方針

(ア) 県教育委員会関係課から出されている「令和3年度教育指導の重点及び取組の方向」を基本に、本校「五綱領」を踏まえ、社会に貢献する生徒の育成をめざす。

(イ) カリキュラム・マネジメントを推進し、チーム学校の一員として、生徒・職員・家庭・地域一体となって、活気ある学校づくりを目指す。

イ 教育目標

(ア) 健全な心身の育成

- ①学校の教育活動全体を通して、人権尊重、道徳を含む生徒の心身の向上に努める。
- ②体験学習・ボランティア活動を通じて、人を思いやる心(恕の心)や、奉仕する心を育てる。
- ③部活動を活発化させ、行動力、協調性、社会性を磨く。
- ④教育環境を整備し、生徒の健康・安全教育の徹底を図る。

(イ) 学力向上と進路指導の充実

- ①一人ひとりの学力や個性に応じた「参加する授業」を工夫し、自ら学び考える力を育成する。
- ②面談やLHR等を通じて、将来の進路目標を早期に設定できるように援助し、キャリア教育の視点から自己実現に取り組みさせる。

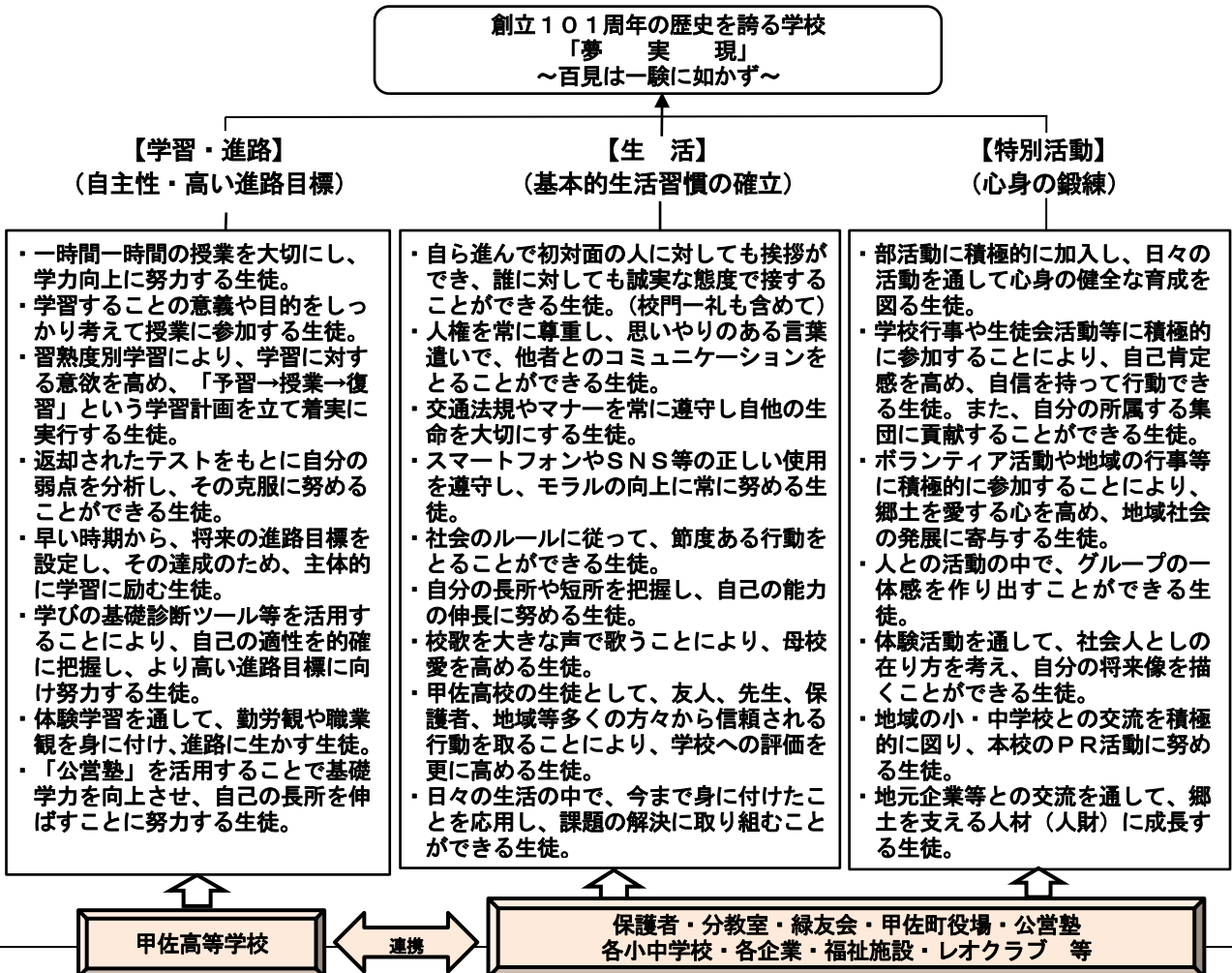
(ウ) 地域社会と連携した学校づくり

- ①一人ひとりの活動する機会を工夫する。
- ②地域社会との連携を通して、あいさつやマナー等基本的な生活習慣を身につけさせる。
- ③地域と連携した教育実践を更にすすめる。
- ④創立百周年の記念事業に向けて、地域の方々に来校いただく機会を増やすことにより、学校、生徒理解につなげ、信頼される学校づくりを目指す。

(エ) 郷土を支える人材(人財)の育成

- ①地域の方々と触れ合う機会を通して、郷土への理解を深めると同時に、郷土を愛する心を育てる。
- ②地域創生の観点からも、将来的に地域の経済社会を担っていく人材、ひいては、組織の中で必要とされる人的な財産としての人材を育成する。

ウ 熊本県立甲佐高等学校の目指す生徒像



2 本年度の重点目標

ア 基本的な生活習慣の確立

- (ア) 正しい言葉遣い、爽やかなあいさつを身につけさせ、社会に適応する力を育てる。
- (イ) 時間を厳守し、遅刻や欠席のない生活習慣や身だしなみを確立する。
- (ウ) 交通マナーやSNS等、社会のルールに対する規範意識を高めさせ、地域を支える人材を育てる。
- (エ) クラスや地域に貢献し、甲佐高校生として自覚と誇りを育てる。

イ 教師の授業力向上、個に応じた学習指導と進路指導

(ア) 「授業力」の向上

生徒が主体となる授業の工夫を重ねるための授業研究、公開授業を活用する。また、生徒からの授業評価を日々の授業の実践に生かす。

- (イ) 個別の添削、面接指導等により個々の能力に応じたきめ細かな指導を行う。
- (ウ) 夢実現のため図書館や進路指導部等の活用をすすめる。
- (エ) 日々の教育活動を通じて生徒理解に努め、共通理解を図る。

ウ 特別活動（生徒会・部活動等）を生かした自主性、創造性、奉仕の精神などの育成

- (ア) 部活動や委員会活動等への積極的に参加できるよう運営や時間を工夫し、教育活動全般を通じて人権教育、道徳教育を行う。
- (イ) 学校行事、ボランティア活動などを通じて、自ら考え、自ら行動できる生徒に育て、将来的に郷土を支える人材（人財）を育成する。

エ 地域と連携した教育活動

- (ア) 広報活動や学校運営協議会（総合型コミュニティスクール）等を通じて、地域社会に対し 本校教育への理解と協力を深める。
- (イ) 保護者との面談や家庭訪問を計画的に行い、家庭と学校の連携を密にするとともに地域社会、特に小・中学校との連携を深める。
- (ウ) 職員の中学校別担当制を更に充実させ、中学校へのPR活動等を強化することにより、入学者増を図る。
※スーパーグローバルハイスクール事業の研究指定を受け、地域連携・協働による教育活動に誠意をもって丁寧に取り組み、更なる充実を図る。

オ 言語環境の整備

- (ア) 学校生活全体を通じて、言語に関する理解や関心を深め、言語環境を整えるとともに総合的な言語能力（読む・書く・聞く・話す）の習得並びに実践する態度を養う。
- (イ) 図書館の充実を図る。

カ 教育相談体制の充実

- (ア) 全ての教育活動を通して、生徒理解と実態把握に努め、心の教育の充実を図る。
- (イ) 各校務分掌や教職員間の情報共有を図り、いじめの早期発見や対応、特別な配慮を要する生徒への対応等、教育相談体制を更に充実させる。
- (ウ) 中高連携を更に充実させ、生徒を支援する組織力を高めると共に、日々の学校生活に有用感や達成感等を得させ、進路変更を減少させる。

キ 防災教育の徹底

- (ア) 熊本地震を教訓とした防災教育の充実を図る。
- (イ) 地域社会、関係機関等との連携を更に図り、風水害等の災害に適切に対応する防災体制を強化する。
※令和3年度(2021年度)学校安全総合支援事業（拠点校）

3 自己評価総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	活気のある学校	体験学習・ボランティア活動の充実（教育目標②）	自ら積極的に体験することで、奉仕や勤労、命を大切にし人権を尊重する心を育む。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3年ビジネス情報科で校外実習の更なる推進を図る ・ 校外でのボランティア活動に積極的に参加し人を思いやり心（怒の心）と奉仕の心を育てる 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍で再三の計画変更を迫られたが企業の積極的な協力体制に支えられ無事実施できた。 ・ 近隣の施設訪問、花壇整備等の活動を行った。

	学校行事等で育む自ら考え行動する生徒	学校行事等に自ら積極的・創造的に参加する。	<ul style="list-style-type: none"> 全ての学校行事に百周年へと繋がる生徒中心の創造的な企画と運営に取り組む 学校行事での役割分担と協力体制を明確にし生徒一人一人が達成感を味わえるようにする 	A	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で行事自体が制限を受ける中ではあったが、スポーツフェスティバルを企画・実施するなど生徒の満足度向上を図るための行事を積極的に実施できた。
	部活動の活性化(教育目標③)	社会(地域)と関わり、年間を通して活発に活動する部活動の育成	<ul style="list-style-type: none"> しっかりとした活動計画を立て、安全で楽しく学べる部とする 行動力、協調性、社会性を学び人格形成の場とする 	B	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍での活動制限もあり、活発な活動とまでは行かなかった。 部活動の活動報告を取りまとめ育友会執行部会で説明、報告し、保護者ととも部活動を育成していく体制を構築した。
信頼される学校	育友会、地域や同窓会との連携・協力	百周年に向け、連携を深める	<ul style="list-style-type: none"> 百周年記念事業拡大実行委員会及び関連した会議を通して、お互いの連携を深める 	A	<ul style="list-style-type: none"> 拡大実行委員会等関連する会議は開催できなかったが同窓会役員との情報共有が図れた。
	保護者・地域等との連携と効果的説明・広報	<ul style="list-style-type: none"> 情報発信の強化 次年度の入学生60人以上、最低でも40人以上を目標とする 	<ul style="list-style-type: none"> 「学校だより」の毎月発行 安心メールによる情報提供推進 担当中学校制を更に充実させ、本校の教育活動を積極的に情報発信することで、次年度の生徒数増に繋げる 中学校を定期的に訪問し、中高連携の強化を図る 	C	<ul style="list-style-type: none"> 「学校だより」は毎月発行した。安心メールで様々な情報を伝えた。 新型コロナの影響で積極的な中学校訪問はできなかったが、上益城地域振興局や甲佐町と連携したPR動画、生徒会の「推し高」紹介動画を作成した。生徒会作品はコンクールで優秀場を受賞。 次年度40人以上の入学生を確保することは難しい状況である。
	緊急時対応の充実	危機管理マニュアル、緊急時対応マニュアルや安心メールを活用し、防災意識や危機管理対応力を高める	<ul style="list-style-type: none"> 緊急時対応マニュアルを基に避難訓練や救急救命講習等を実施する 安心メール登録100%実現 大規模災害の発生を想定した対応訓練の実施 危機管理マニュアルの改訂と充実 	A	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練は計画通り全て実行できた。 保護者の安心メール登録は93%であった。 マニュアルの見直しは計画通り進んでいる。
業務改革・働き方改革	職員の連携・特性の発揮	<ul style="list-style-type: none"> 働き方改革の推進を踏まえた校務運営の改善 生徒との関わりの時間を確保し、生徒の不安や困り感を解消できる環境をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用した業務の効率化を図る 毎月、勤務状況を把握、分析し対応策を示す 職員間の打合せを綿密に行い、共通理解を図りながら校務に当たる 生徒目線でのかかわりを大切にしながら信頼関係を築き、夢を語る雰囲気をつくる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 毎月、運営委員会で働き方改革について協議した。定時退勤推進、休暇取得推進期間を設定し、時間外在校等時間はここ数年と比較して最も少なくなっている。

		<p>会議等の効率化と研修の深化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連絡体制の簡素化と充実を図る ・職員研修の充実を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会の議事録を全職員で共有する ・ゆうネットの連絡回覧板活用について示し、利活用する ・職員研修を長期休業期間にも実施し、効率化を図る 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・職員朝会のあり方を検討し、要項記載事項の充実、発言内容の精選、ゆうネットの活用に取り組んだ。また、朝会要項の、運営委員会議事録等についても、誰でも閲覧できるようにした。 ・会議と研修を効率的に組み合わせて、時間の有効活用を図った。
学力向上	授業の向上	<p>「分かる授業づくり」の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究授業の積極的な実施 ・公開授業の活発化 ・ユニバーサルデザインの授業づくり ・ICT機器の利活用 ・ALの推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価アンケートの実施 ・公開授業週間の設定、積極的参観、地域・関係各所への案内 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・全教科での授業評価アンケートを実施できた。 ・公開授業は実施できなかった。ICTの利活用は向上した。
	個に応じた「分かる」学習指導	<p>授業の理解と個別指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業理解についての肯定的評価を80%以上とする。 ・学習指導と評価が一貫した授業展開 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導法、生徒理解情報の共有 ・身近な題材、体験的活動的な学習 ・観点別評価の更なる充実 ・放課後学習会との連携 ・「学びの基礎診断」の活用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・肯定的評価は8割以上。成績不振者が激減した。 ・放課後学習会は実施なし。 ・観点別評価は今後の課題。
	学習に対する意欲・姿勢	<p>自ら学ぶ意欲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習に対して、自ら意欲的に取り組んだ体験を持つ生徒を100%とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育の視点に立った、個々に応じた授業づくり ・基礎基本の徹底、課題学習 ・将来（進路）につなげる学習指導 ・あゆみ学舎（公営塾）との連携 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・UDの授業づくりに引き続き取り組んだ。 ・課題の提出状況一覧作成、考査前学習会等、学年や教科と連携できた。 ・伊佐町、HASSYADAIの協力でキャリア学習の充実を図れた（1学年）。
キャリア教育（進路指導）	自らの可能性に挑戦し、進路目標の実現を目指す	<p>自己実現に繋がる早期の目標設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路目標の早期設定（3年生は6月までに100%、1・2年生は2月までに70%） 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の視点に立った進路学習の実施 ・進路ガイダンス等への参加 ・タイムリーな進路情報の提供 ・二者面談や三者面談の実施 ・あゆみ学舎（公営塾）との連携 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルス感染拡大防止のため3年生進路ガイダンス等の日程変更はあったが、他の進路関係の取組は全て実施することができ、生徒の進路意識の向上や進路学習の充実につながった。
		<p>進路目標実現のための努力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職・進学希望者全員の進路目標達成 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的な進路情報の収集と提供 ・3学年や各教科との連携、情報の共有 ・個別学習指導の実施 ・進路ガイダンスや職場見学の活用 ・あゆみ学舎（公営塾）への参加 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・3学年職員や各教科担当者、公営塾スタッフ等と連携し、個別学習指導や面接指導等の進路指導の充実を心掛けた結果、9割以上の生徒が第1希望先に合格することができた。

生徒指導	生徒指導 個を尊重した	基本的な生活習慣と言語環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の適切な言葉遣いを育む 無遅刻率98%以上の達成 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な場面で、全職員が言葉遣いに対する指導の意識を強く持つ。 授業時間を守る指導の徹底 	B	<ul style="list-style-type: none"> 言葉遣いに対する指導は適切に行われたこともあり、問題となるような事案はなかった。 新型コロナの影響もあり、無遅刻率の目標達成には至らなかった。
	安心・安全	甲佐高校生としての自信と誇り	<ul style="list-style-type: none"> 特別指導件数10件未満 生徒会主催行事の充実(体育大会、青垣祭) 	<ul style="list-style-type: none"> 問題行動の未然防止のための職員間の情報共有及び保護者との連携 昨年度の反省を生かした企画・運営 	A	<ul style="list-style-type: none"> 特別指導件数は1件1名。 コロナ禍でもかかわらず、様々な企画を成功させることが出来た。
		移動通信端末の危険回避と適切な利用	<ul style="list-style-type: none"> インターネットやSNS利用が関係する問題行動件数の減少 	<ul style="list-style-type: none"> 情報モラル講演会の実施 インターネットやSNS利用に関するアンケートの実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> SNSを介したトラブルは減少傾向にある。コロナ禍で講演会未実施。
		交通安全教育の徹底	<ul style="list-style-type: none"> 交通事故件数ゼロ 交通違反件数3件以内 	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全講話の実施 通学方法別の状況把握のための校外指導の実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> 自転車通学性が3件発生。違反者0。 コロナ禍で講演会は実施できなかった。
人権教育の推進	人権尊重の精神	人権に関する理解の深化および豊かな人権感覚の育成	<ul style="list-style-type: none"> 人権課題の解決に向けた学習の実施と差別をなくそうとする態度の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 人権教育講演会、人権LHRの実施 人権が尊重される環境づくり(授業、言語環境等) 家庭訪問、面談を中心にした背景理解 	B	<ul style="list-style-type: none"> 人権教育講演会、人権LHRを実施した。家庭訪問や面談を積極的に行い、生徒およびその背景の理解に努めた。SNSの使い方についてなど言語環境に関する取組を行った。
		研修の充実と推進体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> 計画的な校内研修の実施 年間1回以上の校外研修等への参加 	<ul style="list-style-type: none"> 人権教育推進委員会の活性化 校内研修の実施 校外研修への参加促進 	B	<ul style="list-style-type: none"> 人権教育推進委員会を活発に実施。校内研修も計画的に実施。校外研修は今年度は多くが中止となりあまり参加できなかった。
	心を育む指導	自他の命を大切に育む心の育成	<ul style="list-style-type: none"> 「自他の命を大切に育む心」を育む取組の実施 教育相談体制の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 命の教育、心の教育の充実 職員会議、研修等による共通理解 相談窓口等の周知 SC、SSW等の専門機関等との連携 	B	<ul style="list-style-type: none"> 職員会議、研修等による共通理解を図った。相談窓口の一覧(プリント)を配付するなど周知を行った。また、SC・SSW等との連携もできた。
いじめの防止等	いじめの防止と早期発見	「いじめ防止基本方針」及び「いじめを許さない」行動指標の定着	<ul style="list-style-type: none"> 生徒、職員、保護者の連携 学校独自作成したSNSの使い方等についての行動指標の点検(アンケート等) 	<ul style="list-style-type: none"> 職員研修等の充実 「心のきずなを深める月間」に各クラスで学習と振り返りを実施 定期的なSNSの使い方等についてのアンケートの実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> 「心のきずなを深める月間」の取組として各クラスで「SNSの使い方、言葉遣いについて考える」学習を実施した。6月と11月にアンケートを実施した。

		いじめ未然防止のための組織的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒、職員、保護者の意識向上によるいじめ未然防止、早期発見、早期対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会による働きかけ ・全校集会等を活用した、いじめ防止等の推進 ・いじめ防止対策委員会の充実（定例開催、随時開催） ・職員会議、学年会等での共通理解と検証 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「甲佐高生のSNSや言葉遣いで気を付ける14のこと」の振り返りを行い、生徒会から呼びかけを行った。いじめ防止対策委員会を臨時及び定例で開催した。
特別支援教育	個々への適切な支援	特別な支援を必要とする生徒の把握・対応	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の支援計画、指導計画の活用 ・生徒、保護者、専門機関との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援計画・指導計画の定期的な評価、検証（校内委員会、職員研修での共有） ・各種機関との情報交換 ・校内研修の充実 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・支援計画や指導計画作成に担当者制を導入し、複数の職員で支援の必要な生徒を支援する体制を整えた。
	コミュニケーション能力を育む	コミュニケーションスキルやストレスに対処する力を身につける	<ul style="list-style-type: none"> ・SST、心理教育の実践・コミュニケーションの機会を増やす 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流面談の実施 ・SST、ストレス対処法LHRの実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・朝読書時に、クラス単位で取り組めるSSTを5日間実施し新しいストレス対処のスキルを身につける機会を増やした。
保健環境	保健管理意識の高揚	健康に対する自己管理能力を高める	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣、感染症予防意識の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症予防の呼びかけ ・個別相談、保健指導の実施 ・健康情報を「ほけんだより」などで提供する 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・朝、昼休みの検温やマスクの着用も定着してきており、感染症予防の意識は高まった。
	環境整備	安全管理と主体的に環境美化に取り組む意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・安全点検の実施 ・環境ISOの周知 ・感染症予防を意識した清掃活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員による安全点検を学期に1回実施 ・環境美化委員による環境ISOチェックの実施（週1回） ・生徒による教室の消毒（掃除時間） ・職員によるトイレや階段の手すりの消毒（放課後等） 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミの分別など、環境ISOの意識付けが不十分だった。 ・消毒は、毎日実施した。
地域連携（コミュニティスクール）など	学校運営協議会制度の充実	学校運営協議会の支援による特色ある学校作り	<ul style="list-style-type: none"> ・総合型学校運営協議会の組織的・継続的な実施（年3回） 	<ul style="list-style-type: none"> ・協議内容を精選したうえで丁寧な活動報告を行う ・担当者との連携を深め、活発な意見交換・情報交換を促進する 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会や県の指定を受けた「スーパーグローバルハイスクール」に係る意見交換会を実施し多くの御意見や御示唆をいただくことができた。 ・各関係者との連携は広がった。
	地域防災及び防止教育の確立	生徒・職員の防災に関する意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携し、地域における防災についての理解を深める ・異世代交流を通しての防災意識の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携した防災訓練の実施 ・町の防災訓練への参加 ・ハザードマップを用いた防災学習の実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍のもとでも工夫して地域と連携した防災訓練を実施できた。 ・ハザードマップを用いた防災学習を実施できた。 ・県の指定を受け、総合防災事業に取り組み、防災への意識が高まった。

4 学校関係者評価

(1) 学校経営について

- ①百周年創立記念式典は工夫がなされており、素晴らしかった。
- ②PR動画は、学校の良さが伝わる作品で良かった。中学生保護者にも好評であった。
- ③生徒たちが自ら考え活動する姿が年々向上している。
- ④PR動画等を今後どのように活用していくかが課題。
- ⑤在校等時間が減少している点は、良いことである。
- ⑥業務改善、働き方改革について、小・中・高の交流などを行い業務改革について考える機会を創出してほしい。
- ⑦他校にない、魅力的な教育課程の検討・開発に取り組んでほしい。

(2) 学力向上について

- ①少人数による個に応じた学習指導が十分に実施されているし、強みである。生徒数が増えても維持してほしい。
- ②少人数を活かした学習指導とソサエティ5.0に生きる学力を身に付けさせてほしい。
- ③今後は、生徒がより高い目標を持って学習に取り組む意欲をいかに引き出すかだと思う。
- ④授業参観を今後も継続して実施してほしい。
- ⑤分かる→学ぶ喜び→意欲と良い変化が子どもたちに生まれている。
- ⑥課題の提出一覧表も未提出が確認でき、家庭でも声かけをするきっかけとなりありがたいと思う。
- ⑦中・高の職員交流授業について検討できればと思う。

(3) キャリア教育（進路指導）について

- ①地元企業、役場、郵便局、消防署、農協、保育園、病院等の連携を深めていくべき。
- ②生徒が高い目標を持つことで意識が高まるのではないかと考える。
- ③9割以上の生徒が第一志望に合格していることは、今後のモチベーションの維持に繋がると思う。
- ④1年生の時から進路目標を立て、できる限り進学への芽をつくってほしい。
- ⑤先生方が一丸となって取り組んでおり、成果に繋がっている。評価がAでも良いと思う。

(4) 生徒指導について

- ①生徒の挨拶はとても気持ちが良い。
- ②朝から気持ちの良い挨拶をする生徒が増えてきたように感じる。
- ③一人一人を大切にされた指導により、指導件数や言葉遣いに成果が出ている。
- ④進路指導と連携した生徒指導を実施してほしい。

(5) 人権教育の推進について

- ①SNSの使い方について、今後も引き続き指導をお願いしたい。
- ②先生方が温かく接する姿勢があり、子どもたちの命を大切にする心やいじめ防止に繋がってる。

(6) いじめ防止等について

- ①いじめ防止についても、引き続き取り組んでいただきたい。
- ②情報共有、組織的対応が必要。警察署等との早期の連携も視野に入れて取り組んでほしい。

(7) 特別支援教育について

- ①しっかりとした、手厚い取組や指導がなされている。個別的関わりができる環境を維持してほしい。
- ②中学校で不登校だった生徒が甲佐高校では毎日通学できている。
- ③担当者制による取組が、子どもたちや保護者の安心感に繋がっている。

(8) 保健環境について

- ①しっかりとした取組がなされている。
- ②甲佐高校内でクラスターが発生しなかったのは、先生方の指導、取組の成果である。

(9) 地域連携（コミュニケーション・スクールなど）について

- ①防災について、実施見聞を行って現状把握と対策を練っておく必要がある。また、そういったことをワークショップ等で意見交換することも効果的である。
- ②地域と連携した防災の取組は、実践に即しており、今後も続けてほしい。
- ③地域の指定避難所指定への進捗状況を知りたい。
- ④小学校と高校のつながりをもっと深まっていけば良いと感じる。今後、機会があれば小学生が高校を知る機会をつくっていききたい。
- ⑤スーパーグローバルハイスクール意見交換会により、多くの意見を聞くことができよかった。
- ⑥あゆみ学舎と学校の更なる連携をお願いしたい。特に、入塾への積極的な指導をお願いしたい。塾の継続が難しくなってきた。

5 総合評価

1 本年度の学校教育目標に対する評価

特に、地域連携した教育実践を柱に取り組みしており、新型コロナウイルス感染症の影響を受けたものの、長期インターンシップや防災に関する地域と連携した取組が実施できた。学校運営協議会やスーパーグローバルハイスクール意見交換会では、貴重な御意見や御助言をいただいた。どれも建設的で本校の取組を後押ししてくれるものであり、今後も地域活性化、学校魅力化に地域関係者と連携しながら、カリキュラム・マネジメントを推進し、活気ある学校づくりに取り組んでいきたい。

2 本年度の重点目標に対する評価

生徒一人一人の個性や能力をどのように引き出し、生きる力を培っていくかということについて、地域と連携した教育活動や校内での学校生活の充実を図りながら取り組んできた。また、様々な諸課題に関係機関と連携して取り組み、その課題解決に結びつけてきた。チーム甲佐高校として教職員が情報交換や共通理解を図りながら、創立100周年記念式典をはじめとする多くの体育的・文化的行事を実施してきたことで、保護者や生徒からの評価も高い。

今後も、生徒を学校教育活動の中心に据えて、各々の生徒に応じた、寄り添った指導、個に応じた指導、個の能力を引き出す指導を引き続き実施していき、本校の魅力をさらに高めていきたい。

3 自己評価総括表に対する評価

地域や各関係機関との連携による取組には好評価を得ており、教育効果も上がっている。また、今後更なる地域との関わり方の充実と質の向上を期待されており、学校関係者一丸となって、その実現に取り組んでいきたい。

生徒数の増加とリンクする学校魅力化（特色化）については、本年度スーパーグローバルハイスクールの指定を受け、多くの示唆をいただきながら、地域理解に重点を置き取り組んできた。学校経営に、地元地域の方々からの御意見をいただけたことは、本校の教育活動の充実を図るだけではなく、本校の教育活動を知っていただく機会ともなった。今後も引き続き、地域と連携・協働した教育活動の展開を推し進めていきたい。

6 次年度への課題・改善方策

(1) 学校魅力化の推進

①情報発信

本年度、上益城地域振興局、甲佐町と連携し作成したPR動画や県の「推し高」コンテストで優秀賞を受賞した生徒たちが制作した動画などを、どのような方法や取組が、より本校に関心を持ち、魅力を感じていただけることに繋がっていくかについて検討し、生徒とともに取り組んでいきたい。そういったことを踏まえて、校内でプロジェクトチームを立ち上げ、学校魅力化発信の更なる充実を目指したい。

②特色化

本校には、県内唯一、敷地内に甲佐町公営塾（あゆみ学舎）が設置されている。また部活動ではクライミング部がある。特に公営塾については、本年度連携不足を感じることもあったことから、次年度は定期的な情報交換の場と窓口の明確化を図りたい。

他校にはないオンリーワンを活かしながら、特色のある活動を実施し、情報発信をしていきたい。

(2) 地域と連携した教育実践の充実

本年度、100周年記念式典を実施したことにより、同窓会、甲佐町等の関係者や地域との関係が非常に深まった。今後こういった深まりが生かされ、今年度の取組を発展的に引き継いでいくことで本校の教育活動の更なる充実につながることを考える。

地域の教育資源に積極的にアプローチし、連携・協働しながら、地域理解を深め、地域活性化に寄与する人材の育成を目指していくことを、本校教職員が共通認識することが重要であり、各種委員会等のあり方について、より効果的な改善・編成を行いたい。